



Sanda christ church Higime Taniguchi 2023

人類救済への神の計画 患難から栄光へ 第1章 (抜粋)

➤教会は人類救済のために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織された。その使命は世界に福音を伝えることである。教会を通して神の満ちあふれる豊かさを世界に反映させることが、神のはじめからのご計画であった。暗やみから驚くべき光に招き入れられた教会員たちは、神の栄光をあらわさなければならない。教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついに「天上にあるもろもろの支配や権威」に対してさえも十分明らかに示されるのである (エペソ 3 : 10)。

➤教会に関して多くのすばらしい約束が聖書に記されている。「わが家はすべての民の祈の家となえられるからである」(イザヤ 56 : 7)。「わたしは彼らおよびわが山の周囲の所々を祝福し、季節にしたがって雨を降らす。これは祝福の雨となる」。「わたしは彼らのために、良い栽培所を与える。彼らは重ねて、国のききんに滅びることなく、重ねて諸国民のはずかしめを受けることはない。彼らはその神、主なるわたしが彼らと共におり、彼らイスラエルの家が、わが民であることを悟ると、主なる神は言われる。あなたがたはわが羊、わが牧場の羊である。わたしはあなたがたの神であると、主なる神は言われる」(エゼキエル 34 : 26、29-31)。

➤「主は言われる、『あなたがたはわが証人、わたしが選んだわがしもべである。それゆえ、あなたがたは知って、わたしを信じ、わたしが主であることを悟ることができる。わたしより前に造られた神はなく、わたしより後にもない。ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない。わたしはさきに告げ、かつ救い、かつ聞かせた。あなたがたのうちには、ほかの神はなかった。あなたがたはわが証人である』」。「主なるわたしは正義をもってあなたを召した。わたしはあなたの手をとり、あなたを守った。わたしはあなたを民の契約とし、もろもろの国びとの光として与え、盲人の目を開き、囚人を地下の獄屋から出し、暗きに座する者を獄屋から出させる」(イザヤ 43 : 10-12、42 : 6、7)。

➤「わたしは恵みの時に、あなたに答え、救の日にあなたを助けた。わたしはあなたを守り、あなたを与えて民の契約とし、国を興し、荒れすたれた地を嗣業として継がせる。わたしは捕えられた人に『出よ』と言い、暗きにおる者に『あらわれよ』と言う。彼らは道すがら食べることができ、すべての裸の山にも牧草を得る。彼らは飢えることがなく、かわくこともない。また熱い風も、太陽も彼らを撃つことはない。彼らをあわれむ者が彼らを導き、泉のほとりに彼らを導かれるからだ。わたしは、わがもろもろの山を道とし、わが大路を高くする」。

➤「天よ、歌え、地よ、喜べ。もろもろの山よ、声を放って歌え。主はその民を慰め、その苦しむ者をあわれまれるからだ。しかしシオンは言った、『主はわたしを捨て、主はわたしを忘れられた』と。『女がその乳のみ子を忘れて、その腹の子を、あわれまないようなことがあるか。たとい彼らが忘れるようなことがあっても、わたしは、あなたを忘れることはない。見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ。あなたの石がきは常にわが前にある』」(イザヤ 49 : 8-11、13-16)

➤教会は神が反逆した世に持つておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。教会への裏切り行為は、ひとり子の血によって人類をあがなってくださった神に対する反逆である。世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。いつの時代にも主は見張りびと(→口語訳=イザヤ 21 : 6、新共同訳:見はり)をお持ちになっていた。彼らは、彼らが生きた世代に忠実なあかしを立ててきたのである。これらの見張りびとたちは警告の使命を伝えた。そして、彼らが自分のよろいをぬぐように命じられた時、他の人々がその仕事を受け継いだ。神はこうしたあかしびとを神との契約関係に置かれて、地上の教会を天の教会と結ばれたのである。神はご自分の教会に仕えさせるために、天使たちをおつかわりになった。そして、黄泉の力は神の民に打ち勝つことができなかった。

➤幾世紀にもわたる迫害、闘争、暗黒の中であって、神は教会を支えてこられた。神は教会に落ちかかってくるどんな暗雲に対しても備えをし、みわざを妨害するために起こるどんな反対勢力も予見された。

すべての事は神の予告通りに起こった。神は教会を見捨てておかれず、起こるべきことを預言のことばで明らかにされた。そして預言者がみ霊に感じて預言した事は、成就した。神のすべての目的は達成される。神の律法はみ座につながっていて、どんな悪の力も、それを滅ぼすことはできない。真理は神の靈感を受け、神に守られている。それはすべての反対に勝利する。

▶霊的暗黒の時代に神の教会は、山の上にある町のようなものであった。各時代にわたり、各世代を通じて天の高潔な教えは教会の中で明らかになってきた。教会はどんなに弱く欠陥だらけのように見えても、神が特別な意味で最高の関心を払われる対象である。教会は神の恵みの舞台であり、そこで神は人々の心を変える力をあらわすことを、お喜びになるのである。

▶「神の国を何に比べようか。また、どんな譬（たとえ）で言いあらわそうか」とキリストは言われた（マルコ4：30）。キリストはこの世の国を用いて神の国をあらわすことはできなかった。神の国に匹敵するものを、社会の中に見つけることはできなかった。地上の王国は、優勢な権力によって治めるが、キリストの国では、武器や抑圧の道具がことごとく消し去られている。神の国は人間を高め、高貴にする。神の教会はさまざまな賜物に満ち、聖霊を受けてきよい生涯を送るものの宮廷である。教会員たちは、自分たちが助け祝福するものの幸福の中に、自分たちの幸福を見つけるのである。

▶神のみ名があがめられるようにと、教会を通して完成するように主が計画された、おどろくべきみわざがある。このみわざは、エゼキエルが見たいやしの川の幻の中に描かれている。「この水は東の境に流れて行き、アラバ（→死海を中心にその南北に走る低地全般）に落ち下り、その水が、よどんだ海（→新共同訳：汚れた海＝死海）にはいると、それは清くなる（→神殿から流れ出た水は死海の塩水を真水に変え、魚が生育できるようになるとされる）。おおよそこの川の流れる所では、もろもろの動く生き物が皆生き、・・・川のかたわら、その岸のこなたかなたに、食物となる各種の木が育つ。その葉は枯れず、その実は絶えず、月ごとに新しい実がなる。これはその水が聖所から流れ出るからである。その実は食用に供せられ、その葉は薬となる」（エゼキエル47：8－12）。

・・・

▶神はご自身の品性を人々に現すために、イスラエルの民をお選びになった。神はその民がこの世の救いの井戸となるようにお望みになった。彼らには天来のことば、神のみこころの啓示がゆだねられた。

以下、略。

出典：希望への光 P.1359～1361、患難から栄光へ 第1章 人類救済への神の計画 エレン・G・ホワイト

人類救済への神の計画

教会は人類救済のために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織された。その使命は世界に福音を伝えることである。教会を通して神の満ちあふれる豊かさを世界に反映させることが、神のはじめからのご計画であった。暗やみから驚くべき光に招き入れられた教会員たちは、神の栄光をあらわさなければならない。教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついには「天上にあるもろもろの支配や権威」に対してさえも十分明らかに示されるのである（エペソ3：10）。・・・教会は神が反逆した世に持つておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。教会への裏切り行為は、ひとり子の血によって人類をあがなってくださった神に対する反逆である。・・・教会はどんなに弱く欠陥だらけのように見えても、神が特別な意味で最高の関心を払われる対象である。教会は神の恵みの舞台であり、そこで神は人々の心を変える力をあらわすことを、お喜びになるのである。・・・神の教会はさまざまな賜物に満ち、聖霊を受けてきよい生涯を送るものの宮廷である。教会員たちは、自分たちが助け祝福するものの幸福の中に、自分たちの幸福を見つけるのである。

～患難から栄光へ 第1章より抜粋～

